

コレクション展 第Ⅲ期 Part 1

イマジン Hiroshima

被爆80年の想像力

2025.

10.16|木|

↓
11.24|月・休|

会場 3階展示室

11.3 無料開館日
|月・祝|

藤岡亜弥『川はゆく』より 2017 © Aya Fujioka

想像するチカラ
想像するココロ

2025年は広島に原子爆弾が投下されて80年の節目の年になります。この間、多くの美術家たちが被爆の現実と向き合ってきました。彼らはその豊かな想像力によって原爆の本質的な意味を追究し、被爆後の人々の営みと生命の尊さを作品にしてきました。

今回のコレクション展は当館が所蔵する作品に館外から借用した作品を合わせて展示することで、広島原爆に対する美術家たちの想像力の在り処を辿ろうとするものです。

同時に私たち自身の「被爆80年の想像力」も振り返る機会となれば幸いです。

関連イベント

1| アーティストトーク

原仲裕三氏は「ヒロシマ展」という独自の概念を展開されています。この制作について詳しくお話をお聞きします。

日時 | 10月18日(土) 14:00-15:00
講師 | 原仲裕三(本展出品作家)
会場 | 1階アトススペース
定員 | 50名(事前申込制・参加無料)
対象 | 中学生以上
締切 | 10月5日(日) 必着

自由参加型鑑賞クイズ
「アートアドベンチャー」

クイズに答えながら
作品を鑑賞しましょう。
回答用紙は受付で配布します。

会期中
実施

関連イベント 1| 申込方法

往復はがきまたはWEBフォームでお申し込みください

往復はがきの場合

- 往信裏面
1. イベント名
 2. 参加者氏名・ふりがな・年齢
 3. 代表者電話番号、住所

■ 返信表面

郵便番号、返信先住所、代表者氏名

申込先: 東広島市立美術館
(〒739-0015 東広島市西条栄町9番1号)

※応募多数の場合は厳正なる抽選により当選者を決定します。当選した場合、キャンセルはご遠慮ください。/応募は1組1通まで、複数申込は1件として取り扱います。/1組4名まで申込可能です。/記入内容に不備不足がある場合は無効といたしますのでご了承ください。記入例は当館HPよりご確認ください。/定員に余裕がある場合には当日先着順にて受付する場合もございます。

WEBフォーム

こちらから



2| 朗読会 平和パスポート対象事業

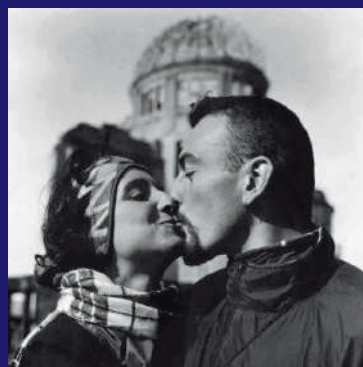
ヴァイオリンとピアノの演奏にあわせて被爆体験記や絵本「ひばくポンプ」を朗読します。

日時 | 11月3日(月・祝) 14:00-14:40
出演 | 朗読 広島県立賀茂高等学校演劇部
ヴァイオリン 松岡礼子
ピアノ 有路悦子
会場 | 1階アトススペース
定員 | 50名(参加無料・申込不要)

3| ギャラリートーク

当館館長が展示の見どころについてお話ししながらご案内します。

日時 | 11月8日(土) 14:00-15:00
会場 | 3階展示室(要観覧券・申込不要)



宮角孝雄『Dall'aglio Carlotta & Marin Piercarlo-Italy』2000 個人蔵 © MIYAKAKU Takao

2025年は広島に原子爆弾が投下されて80年の節目の年になります。この間、多くの美術家たちが被爆の現実と向き合ってきました。彼らはその豊かな想像力によって原爆の本質的な意味を追究し、被爆後の人々の営みと生命の尊さを作品にしてきました。

今回のコレクション展は当館が所蔵する作品に館外から借用した作品を合わせて展示することで、広島原爆に対する美術家たちの想像力の在り処を辿ろうとするものです。

同時に私たち自身の「被爆80年の想像力」も振り返る機会となれば幸いです。

東広島市立美術館 (広報担当: 桑原 学芸担当: 松田 (、野本))

〒739-0015 広島県東広島市西条栄町9番1号

TEL:082-430-7117 FAX:082-430-7118

E-MAIL:2636026@izumi-techno.jp WEB:https://hhmoa.jp/



東広島市立美術館
HIGASHIHIROSHIMA CITY MUSEUM OF ART

■ 開催概要

展覧会名 | コレクション展 第Ⅲ期 part1 イマジン Hiroshima ―被爆80年の想像力

会 期 | 2025年10月16日（木）～11月24日（月・休）

時 間 | 9：00～17：00（入館は閉館30分前まで／10月26日（日）、11月22日（土）は19：00まで開館）

休 館 日 | 月曜日（祝・休日の場合は翌平日）

会 場 | 東広島市立美術館 3階展示室

主 催 | 東広島市立美術館

観 覧 料 | 一般 300（240）円、大学生200（160）円*、75歳以上・高校生以下無料*

※（）内は20名以上の団体2割引 ※11月3日（月・祝）は無料開館日

*学生証または年齢が確認できる証明書をご提示ください

身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けられている方は、無料でご観覧いただけます。

■ 展示構成について

この展覧会では、a.原爆ドーム、b.崩壊と生成、c.基町相生通り、d.被爆樹木、e.絵本『ひばくポンプ』、f.建物の記憶、g.ヒロシマの時間、h.折り鶴の8つのセクションに分けて展示します。美術家たちの多様な想像力に触れていただきたいと思います。

■ みどころ

「原爆ドームの前の人々」

広島出身の写真家・宮角孝雄は、世界遺産原爆ドームの前で核兵器廃絶のために活動する人々、たまたま通りかかった市民の方々までを写真に収めました。その際、宮角は「目を閉じて平和について考えてみてください」とお願いをしています。それぞれの肖像写真から原爆や平和に対する想いを想像することができます。



宮角孝雄 《Dall'aglio Carlotta & Marin Piercarlo-Italy-》
2000© Miyakaku Takao

「絵本『ひばくポンプ』」

2018年、小学校4年生の時に児玉美空さんは手作りの絵本『ひばくポンプ』を作りました。その全原画を一堂に展示します。

広島駅の前に残っていた手押しポンプが市の区画整理のため撤去されそうになりました。そのことに胸をいためた美空さんはこの被爆したポンプを残すように絵本で訴えました。小学生の真っすぐな想像力に触れてみてください。なお、この絵本はクラウドファンディングで資金を募り、2021年に発行されたもので一般販売されていません。また、原画の一般公開も初めてとなります。この機会にぜひご覧ください。

「ヒロシマ暦」

原仲裕三は広島に原爆が落とされた1945年8月6日を「ヒロシマ暦」元年1月1日とする作品を制作しています。今年は西暦2025年、和暦では令和7年ですが、「ヒロシマ暦」を採用するとヒロシマ暦81年となります。人類史的な惨禍であるヒロシマの原爆を忘れないためにも、私たちが今どのような歴史的立場に立っているのかを意識することができるためにも、この「ヒロシマ暦」は大きな意味を持っていると思います。



出品作家 | 原仲裕三
photo by Miyakaku Takao

■ 関連イベント

1 朗読会

ヴァイオリンとピアノの演奏にあわせて、被ばく体験記や絵本『ひばくポンプ』を朗読します。

日時 | 11月3日（月・祝）14:00－14:40

出演 | 朗読 広島県立賀茂高等学校演劇部

ヴァイオリン 松岡 礼子

ピアノ 有谿 悦子

会場 | 1階アールスペース

定員 | 50名（参加無料・申込不要）



※画像は過去のイベントの様子です

2 ギャラリートーク

当館館長が展示の見どころについてお話ししながらご案内します。

日時 | 11月8日（土）14:00－15:00

会場 | 3階展示室（要観覧券・申込不要）



※画像は過去のイベントの様子です

■ 広報用画像

本リリースに掲載している画像を広報用にご用意しています。ご利用を希望される場合は、媒体名、発行日、ご担当者名、連絡先、ご希望の画像を記載の上、東広島市立美術館広報宛にメール（2636026@izumi-techno.jp）にてご連絡ください。画像使用の際は以下にご注意ください。

- ・本展覧会広報目的での使用に限ります。使用可能期間は本展覧会期終了までとなります。
使用後はデータの破棄をお願いいたします。ただし、本展のレビュー記事についてはこの限りではありません。
- ・画像の二次使用はご遠慮ください。
- ・展覧会名、会期・会場名のほか、画像の使用時には下記の画像クレジットを必ずご掲載ください。
- ・作品画像は全図でご使用ください。トリミングや文字を重ねるなど画像の加工・改変はご遠慮ください。
- ・概要など確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で本展覧会広報事務局（申請先に同じ）までお送りいただきますようお願いいたします。
- ・掲載及び放送後は、お手数ですが、掲載誌・同録DVDを広報事務局へ1部ご送付願います。